



ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
 すべての人間の尊厳を重んじよう
 教育・科学・文化の発展に努めよう
 民族間の疑惑と不信を除こう
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

「平和」と「生命」の尊厳と

ヒロシマ国際アマチュア映画祭に寄せて

広島ユネスコ協会副会長 河村 盛 明

バスの窓に流れ去るパリの町の風景を眺めるともなく眺めていた目に突然林立する万国旗がとび込んで来た。陸軍士官学校の黄色いいかめしい建物の近く、それとは裏腹にパッと明るい平和の色をただよわせていたのをはっきりと記憶している。

四年前の一九七六年春、ユネスコ本部で日本文化祭が開かれたのを機会に、私が携わっていたヒロシマ国際アマチュア映画祭からも、入賞作品の一部を持ち込んで上映会を催した。その時、かつて垣間見たユネスコ本部を思い出し、「ああ、あそこなら、アマチュアの訴える平和と生命の尊厳の主題が、きつと理解されるにちがいない」と思い込んだものである。そして予想通り、多くの人たちに感動で迎えられた。出品されたのは第一回グランプリの「ふたりぼっち」特別出品の「太陽の消える時」「私の中のヒロシマ」など五本。特にヒロシマを題材にしたあとの二本は特別の関心と反

響を呼んだという。映像で訴え語らせるといって、こういう形で働きかけは、地味ではあっても心の中にまでしみじみと浸透する力を持つのではないか。特にそれがアマチュアの手で作られた作品であり、「心の中に平和を」「人間の尊重」などを柱にした民衆の側の国際連帯の場での催しであったことが、何より深い意味を持っている。私は信じている。

考えてみれば、原爆被爆三十年を機会に、広島でスタートしたこのヒロシマ国際アマチュア映画祭は「平和と生きることの尊厳」をテーマに据え、広く海外へも出品を呼びかけたのは、期せずしてユネスコの精神と合致したものであったといえよう。むろん最初から日本ユネスコ協会連盟が主催団体の一員に加わり、その代表として第一回は原武夫氏、第二・三回は内海蔵氏が審査員に連なっておられるのも、この映画祭の趣旨がそのままユネスコの精神に二重写しのように重なったためである。

第一回は一九九篇(海外五九国内一四〇) 第二回は一六〇篇(海外四八、国内一二) 第三回は一九五篇(海外四九、国内一四六) というほう大な応募数である。特に海外からは第一回一六、第二回一八、第三回二一か国と回を追って参加国がふえつづけ、映画祭の趣旨が世界的なひろがりを持ち始めているのはユネスコを通じての呼びかけが反響を呼んでいるものと思う。

第一回のグランプリ「ふたりぼっち」(迫田佳伸作)は山奥の分校での双子の姉妹と先生との間の心のふれ合いが広く感動を呼び、第二回の「江清丸」(森永泰輔作)はいかだで川下りをする三人の先生の悲喜こもごもの冒険行が巧まぬユーモアを誘い、第三回の「木曾馬の譜」(岡嶋敏弘作)は絶滅に瀕した木曾馬と人間とのあたたかい交情が「生命」をテーマにして間然するところがなかった。海外作品に贈られる外務大臣賞も第一回はマルタ、第二・三回はブルガリアが連続受賞、ブルガリアの二

大切な民間国際交流団体の役割

広島ユネスコ協会常任理事 深崎 敏之

国際交流ということは最近特に使用度が高くなっている。外国人の人を招いたり、日本人を外国に派遣し、相互に理解を深め、芸術、スポーツ、学術などの文化的交流の推進を意味しているようだ。日本での代表的な団体は「国際交流基金」「国際文化会館」などである。

昭和二十年代は国民の一部の人々、特に社会の上層部のエリートの人々によって国際交流は進められてきたようである。昭和三十年代に入ると長崎市とセントポール市が、広島市はホノルル市と姉妹都市提携を結び、地方自治体も幅広く、顕著な国際交流事業が行われるようになった。民間においても、日本と関係の深い国々との友好協会が結成された。昭和五十年代に入ると旅券の発行数が五十一年一五〇万七千人、五十二年一七五万人、五十三年一八三万四千人と年々増加している。現在広島市で民間の特定の国との友好交流団体は下表の通りである。

広島市所在民間国際交流団体一覧表 (昭55. 9. 8 現在)

団体名	TEL	団体名	TEL
1 広島日伯協会	41-3131	10 広島県日中友好協会	31-3935
2 広島日濠協会	48-0221	11 日本中国友好協会 会広島県連合会	21-8930
3 広島日米協会	47-2951	12 広島日西文化交流会	49-6376
4 広島日仏協会	21-8576	13 日朝協会広島 県支部連合会	21-3678
5 広島日英文化協会	41-1221	14 広島県日韓親善協会	28-2902
6 広島日印協会	47-1497	15 日・ベトナム協会	28-2266
7 広島日伊協会	41-1221 (内874/477)	16 日本ドイツ民主共和 国友好会広島支部	41-1221 (内588)
8 広島日独協会	41-1221 (内731)	17 広島日独友好協会	73-1924
9 日ソ協会広島支部	92-9507	18 日ソ協会広島支部	28-2266

これ以外にもかなりの団体があると思われるが、残念ながら把握していないことをお詫し願いたい。未来の国際環境というものには、いろいろな面できびしいものになるであろう。日本と日本人はこれらにどう対応すべきか、一層の努力を要求させられている。

すばらしいロンドン・シェークスピア・グループの広島公演

広島ユネスコ協会が他の国際交流団体との共催で、交流事業に積極的に取り組むようになって三年の時が流れた。昨年十一月二十四日、ロンドン・シェクスピアのグループ九人が広島を訪れた。このグルー

プの来広は五回目である。全国数か所で大学生を対象にシェクスピア劇を演じているグループである。英国文化振興会(ブリティッシュ・カウンシル)と東京新聞が主催しているのである。今回は一般市民を対象に公演が行われないものかと関係機関と相談した。永井滋郎会長、広島平和文化センター、広島YMC A、広島国際文化財団、東京新聞の渡辺憲一氏の間で意見の一致をみて、十一月二十五日午後六時から一時間の公演と決定した。グループは平和公園で、二百名位の観客を対象にしたものを強く希望した。これには平和記念館ホールが最適で、彼等は非常に喜んだ。演ぜられる劇は「ベニスの商人」である。一体どのくらいの人々がみえるだろうか多少の不安はあった。開演に移ると、ホール固定席は全部埋められ補助席も使用ということになった。この劇は日本では非常によく知られているもので明治十八年大阪の恵比寿座で「何様彼銭世中」という標題で演ぜられている。その後「人肉質入裁判」という題でも行われた。市民の皆さんに喜んで頂けたらうと心ひそかに期待して

いた。英語は美しく、はっきりしている。あっという間に終わった。時間の関係で「箱運び」と「法廷の場」が中心で、十六世紀イギリス文学の伝統的な一つのテーマである友情と愛の苦しみ、アントニオとバッサニオの二人をめぐって、見事に展開されたのである。ユネスコ高校生の集いに参加した諸君にもかなり来て頂いて感銘深いものを感じてもらったと思う。この劇でジェシカを演じてくれたペニー・カスターグリーは次のような便りを広島を去った翌日送ってきた。「平和公園を御案内頂きありがとうございました。私は平和公園で見たり、感じたりしたものは忘れませんが、とくに広島の人々の親切、温かさは忘れられないでしょう。新しい広島はどんなことがあっても人類は生き残り、しかも人間性を失わずに生き残った勇氣と能力を立派に示した証拠であります。私は広島でみたあらゆるものをよく考え、今日私達にとってどんなことを意味しているかをイギリスの人々に伝えます。日本国民とイギリス国民とが互いに手をとりあって、真の世界平和の実現に努力しましょう」

国際交流の一つのあり方を考えさせてくれた行事であったと思う。(広島市国際交流課長)

有意義だった第三回 ユネスコ高校生の集い

常任理事 藤 井 正 一

広島ユネスコ協会が発会し、五年目に入り、本会員の活動だけでなく、若い人々の心にも、ユネスコ精神を芽ばえさせようとの企画が生まれ、高校の先生方の協力で、「第一回の集い」が開かれたのは昭和五十三年の秋でした。平和記念館に五十五名の高校生が集い、W・ローエル博士（ドイツ神戸総領事）の講演と関連映画を見て、実りのある集いでした。

第二回は、昭和五十四年秋に平和記念館で、ヒロシマ国際アマチュア映画祭の優秀作品の上映とジョー・ヒックス氏（広島大学院生）による国際理解の問題点についての講演（日本語）と懇談でユネスコ精神の研修を深めました。

第三回目は、前回に参加した高校生達が準備委員になって、若い創造力を生かし自主的に企画・運営をしてもらうことにしました。五回の準備委員会を積み重ねて、次のような企画で考えがまとまりました。

(一) 講演は固苦しいので、参加者が打ちとけられるように、ゲームや歌を取り入れて、その



高校生によるコア・アクション街頭募金

後、今後の活動を協議する。(二) 十一月の全国規模のコア・アクションに呼応して、街頭募金を行ってみよう。

これらの企画を実行に移したのは、十一月九日(日)でした。午前十一時三十分、市民球場前に三十三名（広大付、舟入、芸芸、第一女子商）の高校生が集まり、内海顧問からコア・アクションの趣旨を聞いて再確認して、十二時からそごう百貨店前と本通りの二か所（西入口と福屋百貨店の裏）で、内海顧問、加藤常任理事・深瀬常任理事・永田先生、山根先生が各グループの指導者と打ち合わせて段どりをきめて、道行く人々に

「カンボジアの子供達の苦しみを理解して、心とお金の募金をしてください」と声のポオリウムをあげて呼びかけました。最初は、とまどいと恥かしさもありましたが、各生徒達には勇気が生まれてきました。

特に、お年寄りの人たちから「よくやりますね。頑張るなさいよ」と声をかけられ、また、子供連れの主婦は、子供の可愛い手にコインを握らせて募金箱に入れてもらったり、突張っている若者が気恥かしげにコインを入れてくれるのは、感激的な経験でした。一時三十分募金を終えました。

午後二時から、平和記念館で「高校生の集い」が始まりました。河村副会長（平和文化センター理事長）から「ユネスコ活動」についての挨拶があり、次に水野監事の指導で高校生四十五名（六校）はゲームをしたり歌を歌ったりして、気持ちが高ぶれてきました。

引き続き、三つのグループに分かれて、市教委の外国人教師H・ソングーズ、P・ショーそしてR・ミラーの各先生、さらに深瀬常任理事、中島先生、長迫先生に参加してもらい、「高校生が連帯して、今後いかに活動をすすめるか」について話し合いました。三人の外国人の先生

方の活動の体験談、高校生の社会活動への参加などについて、簡単な事は自前の英語で、複雑になると先生方の助力もあつて、話し合いはなごやかに行われました。

四時過ぎに、全体会で各グループの報告があり、今後、この集いを生かして具体的な活動を考えていこうとのことでした。閉会前に、街頭募金額六万一

募金を通し知る人間の温かさ

広島第一女子商業高校三年生 高 下 千秋

私は、去る日曜日、カンボジ

ア難民の子供たちの教育援助募金を広島市内三か所で呼びかけました。私は高校ユネスコメンバーの一人なのです。募金活動は、生まれて初めてで、不安と恥ずかしさでいっぱいでした。

ところが、街頭募金を始めてみると、その不安はまたたく間に消えてしまいました。小学校にも入学していないような男の子が、父親から百円玉をもらい、ちっちゃな手に握りしめて、恥ずかしそうな顔をして、背のびし募金箱にお金を入れてくれました。それを少し離れたところで父親が見守っているんです。無精にうれしくなり、その時から私の声は一段と大きくなりました。

時間がたつにつれて、私たちと同じ高校生が真剣な顔で募金をしてくれたり、少しお年をとった方がすつとお札を入れてくれたり、ちょっとつばった男の人が、恥ずかしそうに百円玉を入れてくれたりしました。足の不自由な人が、募金をしてくださったとき、胸がつまりそうになりました。

私は、募金を通して人間の優しさや温かさに触られました。その善意が、六万千八百三十三円という大金。一人一人の善意がカンボジア難民などの子供たちにも、机やノート、鉛筆に役立っています。(広島市安芸区瀬野川町)

明日に残そう かけがいのない地球

『1980年度西日本ブロック青年
ユネスコ研修会福山大会の報告』

広島ユネスコ協会青年部長 薄田 信也

一九八〇年度西日本ブロック大会は西日本地区以外の青年達も加え、多数の青年達が参加して、五月三日から五日まで福山市みろくの里研修センターでおこなわれた。

この大会では「明日に残そう かけがいのない地球」をテーマとし、現在私達を取り巻く環境が、エネルギー問題、環境汚染問題など、種々の問題を抱えている中で、その問題をまず解決し、明日に少しでも住みよい地球を残していく責務があるとし、そのような観点に立ち、私達が青年ユネスコとして身近な問題を取り上げ、私達が成し得る活動を自ら探ることにより、ユネスコ活動の意義やこれらの方向性を見出して行こうという趣旨のもとで開かれた。

大会はまず、中央公民館において開会式がおこなわれた後、広島大学名誉教授内海先生により「八〇年における民間ユネスコ活動のあり方を考える」と題して記念講演がおこなわれた。停滞きみの現在のユネスコ活動

をどのようにして活発なものにしていくかということを考えて行く上で多めに参考になったように思われた。

引き続き会場をみろくの里研修センターに移し研修がおこなわれたのであるが、本大会のたいへんユニークな点は分科会において見られたようである。

この分科会は三つに分けられており、第一分科会は「すばらしい家庭づくり」に私達が果たすべき役割」と題した生活教育、第二分科会は「わたしたちが身近にできる国際交流」と題した国際理解、第三分科会では「郷土からの出発」と題した郷土日本の心という内容であった。各分科会では自分達の意見を出し討議し合った後、第一分科会ではコア・アクション活動、第二分科会ではベトナム難民の救援施設の訪問、第三分科会では地元

従来の分科会ではだいたいにおいて討論会だけに終わっていたのとは異なり、短い時間ではあるが実践活動を取り入れたことにより、大会がいっそう充実したものになったようである。私が参加した第二分科会では、身近な問題として、私達青年ができる国際交流とはどのようなものかということについて討論した。そして、実践活動としてベトナム難民の救援施設を訪問し、ベトナム人の方々と交流をおこなった。最初は打ち解けなかつた私達であったが、バレーボールをいっしょにやってみる中で打ち解け合い、たいへん楽しく、充実した時間を過ごすことができたのである。他の分科会においても、同様の成果が得られたように聞いている。

最終日には全体会議がおこなわれ、各分科会からの報告、質疑応答や反省などがなされた。この大会は従来の大会と異なり内容的にもまた場所的にも違ったものであった。特に場所を人里離れた研修センターとし、金のあまりかからない大会にしようとなされた福山ユネスコの人達に敬意を表したいと思っ

ていた。大会終了後、県内の各青年ユネスコは県青ユ協設立について

広島ユネスコ協会 昭和五十五年度役員

名誉会長	荒木 武	坪山 和聖
顧問	内海 巖	理事(順不同)
会長	永井 滋郎	俣野 仁一
副会長	松原 博臣	田中登志子
	尾尻 隆之	田中登志子
	河村 盛明	藤井 正行
常任理事 (教育活動)	伊東 亮三	太鼓矢 晋
(組織活動)	古川 浩司	石田 昌義
(文化活動)	加藤 朗一	新川 貞之
(国際交流)	溝上 泰	深瀬 文恵
(広報活動)	高橋 昭博	藤井 正一
監事	生塩 公敬	水野 文隆
事務局長	赤毛 行夫	

「わたぼうし」広島「コンサート」にご協力を

とき 四月四日(土)

午後六時開演

入場料 広島郵便貯金会館

前売券一、〇〇〇円

当日券一、二〇〇円

このコンサートの収益金は

「たけのこ村」のメンバーが

ユネスコ総会(パリ)に招

待されて、ハニワ展を開く基

金にあてられます。

実行委員会から各会員に直

接にご協力をお願いします。

